

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学

## 1 全体評価

北陸先端科学技術大学院大学は、豊かな学問的環境の中で世界水準の教育と研究を行い、科学技術創造により次代の世界を拓く指導的人材を育成するとの理念を掲げ、先端科学技術を担う大学院大学として、持続可能な地球社会の諸課題の解決に向けた基礎科学、応用科学の探究や、社会のニーズを踏まえた研究開発等を目指している。第3期中期目標期間においては、学内外の知を融合した新たな先端科学技術分野の創出と当該分野における世界的な教育研究拠点の形成を推進するとともに、産業界等において世界的に活躍し得る「知的にたくましい」人材の育成や社会的課題の解決、イノベーションの創出に貢献することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、全学融合教育研究体制を構築するとともに、国立研究開発法人理化学研究所との間で、幅広い分野において利用が拡大している集積回路FPGA（Field Programmable Gate Array）の研究分野において連携・協力することを目的として「FPGAクラスタ研究分野」に関する覚書を締結し、外部研究機関との連携を強化するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 入学後の全学オリエンテーションにおいて、留学生向けに日本の企業文化や留学生の就職・採用動向、企業が期待する日本語能力のレベル等について説明するため、英語による進路ガイダンスを実施するとともに、留学生向けに北陸の企業等との交流会を開催し、情報交換を行っている。また、修了後に日本での就職を希望する留学生を対象として、授業科目として「実践日本語特別演習」を開講（11名履修）するとともに、希望する学生にはキャリア開発カウンセラーによる就職相談を実施している。（ユニット「知識科学の方法論を用いた日本型イノベーションデザイン教育の実施や産業界との連携強化によるイノベーション創出人材の輩出」に関する取組）
- 教員業績評価の実施に関する要項に基づき、教育、研究、社会貢献、大学運営、外部資金の獲得に係る評価事項についての点数を集計することにより、定量的な指標による透明性の高い評価を実施するとともに、評価結果を教員本人へフィードバックすることにより、教員自身による自己評価や業績の向上を図っている。（ユニット「人事・給与制度改革による多様な人材の確保」に関する取組）

## 2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ 人事給与マネジメント改革の推進による若手教員比率等の増

教員公募において、新たな年俸制の下での職位ごとの基本給、業績連動給及び諸手当を明示することにより、若手研究者からの積極的な応募を促進するとともに、職位（教授、准教授、講師、助教）ごとの固定給と、教員の業績評価結果及び大学の間接経費等収入を連動させた変動給からなる新たな年俸制度を開始した結果、研究科本務教員における若手教員比率は、平成30年度の35.4%から令和元年度は36.2%と過去最高となっている。また承継職員のうち、年俸制適用者は平成30年度の37.2%から令和元年度は49.0%となっており、平成30年度に上方修正した目標値（年俸制適用比率40%）を上回って達成している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

---

- ①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

---

- ①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

---

- ①施設設備の整備・活用等 ②安全管理・危機管理 ③法令遵守

**【評定】** 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

### ○ 新たな研究施設の設置

令和元年度において、既設の4つの研究施設に加え、深層学習等の機械学習技術の基礎に立ち戻り、解釈可能・説明可能な人工知能による判断をクリティカルに応用するとともに、実証的な信頼性を確保すること及び海外との共同研究におけるインターフェースとなることの2点を目的とした「解釈可能AI研究センター」を新たに設置することを決定し、社会的課題の解決や未来ニーズに応える研究を推進している。